

# 家庭学習応援だより

## 冬休み直前号

先日の学期末 PTA の授業参観では、お世話になりました。今回の授業参観は5校時のみの参観でしたが、子供たちの学習の様子はいかがでしたか。

さて、2学期が終わろうとしています。学校の長期休業は春、夏、冬、ありますが、中でも**冬休みは、実は子供の学力を伸ばすチャンス**です。ではなぜ、冬休みに子供の学力が伸びるのでしょうか。理由はいくつかあります。**1つは、普段は忙しい親御さんでも、年末年始は長めの休みが取れますね。子供の学習を見てやれる時間が十分あるということ。**誤解しないでいただきたいですが、親がつきっきりで長時間、勉強するのがよいではありません。むしろ逆で、小学生は短時間で集中してやったほうが、学力は身に付くものです。**もう1つは、高学年の児童だけですが、冬休み明けに、学力診断テストがあるということ。**「宿題は少ないけど、ちょっとは勉強しておこうかな。」というものです。また、中学受験を考えている**6年生にとっては、ラストスパートの時期**です。イベントの多い冬休み。**計画を立てて、家庭学習を短時間で済ませる習慣を身に付ける機会**にしてほしいと思います。

### コミュニケーションボード



#### 菅谷教諭(第1学年担任)

宿題の取組では、漢字の学習が本格的に始まり、漢字の練習に励む児童が増えてきたと思います。ただ、書き順の間違いや雑な字形になってしまうことがあるので、量も大事ですが、丁寧さも大切にしてほしいと思います。

学校の授業では、1学期よりも挙手して積極的に発言しようとする児童が多くなりました。

#### 河野教諭(第2学年担任)

1学期に比べて、宿題をよくやってくるようになりました。ただ、全体的に漢字が苦手なようです。算数では、かけ算の九九が課題です。冬休みに繰り返し復習できるとよいです。

文具は学習の基本です。鉛筆が短かったり、先を研いでいなかったりすると、書きづらく、整った文字を書いたり線を引いたりすることができません。学習用具をきちんとそろえてきてほしいです。

#### 重藤教諭(第3学年担任)

授業に集中して取り組むことができている。ただ、既に習った内容を忘れてしまうことがあるので、今は復習に力を入れています。授業は楽しく受ける子が多くなってきています。

宿題では、漢字と計算を出していますが、提出しない児童がいます。漢字は、忘れると日に日に覚える字が増えてしまうので、新しく出た字はその都度覚えてしまうのがよいです。

#### 佐野教諭(第4学年担任)

課題や問題に対して、自分の考えをもって友達と対話や協働して学習に臨むことができるようになってきました。欲を言えば、例えば算数では考えを言語化することが苦手でも、絵図で表すことができるとよいです。また国語は、早く課題を仕上げたいと思うあまり、文章が整わないことがあり、推敲に時間を割いて文章を整えられるとよいと感じます。

#### 金澤教諭(第5学年担任)

社会は、調べ学習が好きな子が多く、主体的に学習できるようになりました。ただ、算数は苦手と得意な児童の差が大きくなっています。また、授業への集中力も二極化してしまっています。算数は、単に値を求めるだけの計算力、暗算力も大切ですが、現在の算数で重視されているのは、考え方を式や言葉、絵図で思考したり表現したりすることです。値を出すまでの過程をもっと大事にできるとよいです。

#### 宮内教諭(第6学年担任)

高学年になってくると、わからないところを隠そうとする児童がいるものですが、この子たちは、そういった面が見られないので、授業中に細やかな支援ができます。

ただ、友達のよい意見を素通りしてしまうことがあり、惜しいなと思うことがあるので、他の子の発言も大事にできるとよいです。宿題は、お家の方がよく声かけしてくれているので、以前よりも忘れがなくなってきました。

# 親と子の家庭学習ナビ



「家庭学習の大切さは十分に分かっているけど、どう取り寄せたらいいの？」ここでは、家庭学習をナビゲートしていきます。家庭学習を効率的かつ効果的にするコツを、低学年、高学年別に考えてみたいと思います。

どの子にも共通して言えることは、**疲れをためない**ということでしょう。保護者の皆様ならお分かりでしょうが、疲労は「やる気」をそいでしまいますよね。また、人は習慣づかないことを始めようとすると、急に腰が重たくなり、何か理由をこじつけて、やらずに済まそうとする度し難い生き物です。ダイエットが高確率で挫折するのがいい例ですよね。大人の口ぐせを子供はよく聞いています。小学生でも「今日は、～～で疲れているから、……。」なんてことを言います。話を本題に戻しますが、時間的、体力的に無理が生じないように気をつけましょう。家族の行事や習い事で忙しい場合は、その前後でカバーできるよう計画を調整することが大切です。

## 低学年(1～3年生)

### ・学校で学んだことを理解度で分ける

- ・理解できたところは、○
- ・理解があいまいなところは、△
- ・理解できなかったところは、×
- ・学校のテストやノートを單元ごとに見返し、理解度を把握しましょう。すると、子供はどこを中心に学び直せばよいかわかります。具体的には教科書の目次などに、印をつけるのを確かめてあげたり、印をつけてあげたりするとよいです。

## 高学年(4～6年生)

### ・連動した振り返りで家庭学習

- ・授業、家庭学習、テストの場面ごとに振り返りをする。特に、テストは○か×かでなく、問題に取り組む過程で子供がどのように考えていたかを引き出したり、思い出させたりすることが大切です。
- ・具体的には、「これはどんな考え方で解いたの?」、「この問題を間違えた原因は何だと思う?」などの**問いかけ**をして子供の振り返りをサポートしてあげましょう。



## 学びを続ける子供に育てるために



皆さんが家庭学習で重視したいことって、何でしょうか。「どんな勉強法がいい?」、「教材は何がいい?」など、大半の親御さんは、家庭学習の方法や手段に注目してしまうと思います。それ自体は決して悪いことではありません。ですが、**家庭学習の最大の目的**って、どんなことでしょうか。

学校は「**習慣化すること**」だと考えています。どんなに優れた教材や学習方法でも、「**習慣化**」されなければ効果は期待できません。スポーツ選手がルーティーンを重視しているのは、よく知られていることですが、家庭学習にも同じことが言えると思います。**続けるための工夫が必要**です。先ほど少しだけ触れましたが、人間の脳は本来、新しいことやこれまでの自分とは異質なことに対して頑張るようにできていません。脳が勝手にストップをかけようとするわけです。ダイエットが三日坊主で終わるのは、頑張れないあなたが悪いわけではないのです。

優れた人ほど自分のありのままをよく知っています。続けられない自分を見つめ、**続けるための仕掛け**を考える力を、「**メタ認知能力**」と言います。一般的には、**自らを俯瞰的に見て、第三者的な視点に立って自分自身をより良い方向に上書きしていく能力**、のことを指しますが、この能力は子供の**課題解決能力**や**目標達成能力**を大幅に底上げするだけでなく、新たな課題に直面したときに子供自らが**心理的安全性をつくりだす能力**も高めることになるため、これからの激動の時代を生きるためにますます必要となる能力とされています。

おわりに

ここでは先ほど取り上げた「**メタ認知**」について、図解で触れておきます。なかなか聞き慣れない言葉だと思うので、右図からイメージしていただければと思います。奈良教育大学によると「自分に適した問題の解き方や課題に適した学習の仕方、自分の強みや弱みを把握できるようになり、効果的な学習が可能になるため、結果的に、学習内容がよく理解できるようになる」と、「**メタ認知**」の意義を述べています。

